

塩竈の魅力、情報を全国へ



しおがま未来大使

塩竈にゆかりのある9人の方にご就任いただきました。

次世代へ繋がる「ふるさと塩竈」を創り上げていくためには、塩竈の魅力を全国に発信するとともに、市民がいつまでも楽しく塩竈に暮らしたいという気持ちを育てることが大切です。

そのため、これまでの「しおがま文化大使」の活動に市民の本市に対する愛着や誇りの醸成を図ることを加え、新たに「しおがま未来大使」としてスタートしました。

本市出身者、または居住経験のある9人の方にご就任いただいています。



声優
山寺宏一さん



写真家
平間至さん



カメイ株式会社 代表取締役社長
亀井文行さん



ピアニスト・チェンバリスト
鶴田美奈子さん



ミュージシャン
大友康平さん



プロスポーツインストラクター
畑中みゆきさん



起業家・経営者
松田公太さん



ピアニスト
菅野潤さん



フリータレント
本間秋彦さん

“海と社に育まれる楽しい塩竈”へ

～ まちの魅力と価値を高めていくには ～



市議会議員 阿部 かほる



宮城大学 事業構想学群 准教授
佐々木 秀之 さん



カメイ株式会社 代表取締役社長
しおがま未来大使 亀井 文行 さん



市長 佐藤 光樹

昨年「今ある個性を大切に、みんなでつなぎ合わせて、新しい魅力を創り上げていく、未来に続くまちづくり」を基本理念とする、第6次塩竈市長期総合計画がスタートしました。今回は、しおがま未来大使の亀井文行さんと宮城大学准教授の佐々木秀之さんをお招きして、塩竈市が未来に向けて、特有の豊かな資源を活かし、その魅力をさらに高めていくためのまちづくりを考えます。



佐々木 秀之さん

宮城大学事業構想学群准教授 博士(経済学)
大学では社会起業論、地域資源論を担当。
第6次塩竈市長期総合計画審議会委員、
宮城県塩釜高等学校で「塩竈まちづくり活性化プロジェクト」実行委員会委員を務める。



亀井 文行さん

塩竈市出身
しおがま未来大使
カメイ株式会社 代表取締役社長
仙台トヨペット株式会社 代表取締役会長
株式会社宮城テレビ放送 社外取締役
多くの会社の役員を務めるほか、やまがた特命観光・つや姫大使、青森県文化観光大使、にいがた観光特使として、地域の活性化にも貢献。

協力 / NPOみなとしほがま・chair bank

塩竈の魅力とは

市長 ■ 明けましておめでとうござい
ます。昨年に引き続き、コロナ禍、
物価高という情勢が続いております
が、それを理由に市政を停滞させる
わけにはいけないと心に誓い、この
先の市政運営をどのように進めてい
くか、皆さんにご示唆をいただきた
いと考えています。よろしく願ひ
します。

本市は、18年後の市制施行100
周年に向かって、過去をしっかりと
受け止め、現実を直視し、どのよう
なまちづくりをしていくか、重要な
時期に来ております。

塩竈にずっと住んでいると、先入
観が強くなり、塩竈が持つ素材の良
さを忘れがちになってしまわないか
考えます。

今日は、皆さんから見た塩竈はど
んなまちなのかをお伺いすること
で、改めて塩竈の価値を見出せたら
と思います。よろしく願ひします。

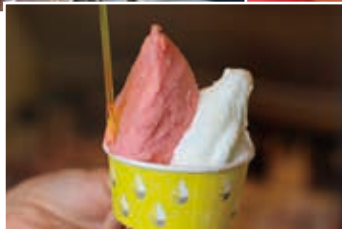
亀井 ■ 明けましておめでとうござい
ます。昨年は「しおがま未来大使」
を拝命し、大変うれしく思っていま
す。今日は、どうぞよろしく願ひ
します。

私が塩竈で生まれ育った頃、昭和
の高度経済成長期の塩竈は、子ども
がたくさんいて、何か悪いことをし
たときは、よその子どもでも叱って
くれるおっかないおじさんいまし

た。今考えると貴重な存在でした
ね。まち全体が家族のようでした。
高校一年生で、仙台に引っ越しま
したが、「三つ子の魂百まで」と言
うように、住んでいなくても一生、
塩竈から離れられないと思います。
週末にドライブに出ても、いつのま
にか塩竈に来てしまったりするん
ですよ。私は塩竈ほど可能性が高い
ちはないと思います。奥州一之宮の
鹽竈神社の門前町があり、港があ
り、離れてみて、素晴らしいまちだ
と実感しました。

仕事でも東京の取引先の方を何度
も塩竈にご招待しましたが、鹽竈神
社を案内すると、その荘厳さに皆さ
ん驚かれますね。鹽竈神社などは、
伸びしろがあると思っています。神
社に行く目的は、もちろん参拝です
が、併せて楽しみたいことは、やは
り「食」だと思います。商店街の整
備や活用も大事ですが、やはり「食」
も重要な要素です。塩竈の「食」の
認知度が上がってほしいと思いま
す。

議長 ■ 私は結婚してから塩竈に住み
始めたのですが、初めて来た時に、
一番感じたのは、とても活気があっ
て、活きの良いお魚があつて、人的
交流があり、とにかくまちが生きて
いる感じを受けました。実は、私は
結婚式を鹽竈神社で挙げて、子ども
が生まれた時も神社から子どもの名
前をいただいて、二人の孫の名前も



本町通りのカフェやスイーツ店は若者に人気



市民に親しまれ、多くの観光客が訪れる鹽竈神社

いただいています。ですので、「鹽竈さま」への思いは強いですね、そのような歴史文化の中で、自分たちが育つという素晴らしい、これは鹽竈の魅力だと思います。

門前町での取り組み

市長■佐々木先生を座長に地元町内会・商店街、そして若い世代の皆さん参加のもと、門前町を考える協議会を立ち上げていただきました。鹽竈神社にご参拝の皆さんや多くの市内外の方々にまちなかを散策していただける工夫をご提案いただくためです。

例えば、県道北浜沢乙線表坂から裏坂を『ほこみち制度(国の補助)』を活用して『歩きたくなる道、居たくなる道』へ、地域のコミュニケーションを活かす工夫もしていきたい、そんな思いです。

佐々木■私たち宮城大学では、塩釜高校の生徒たちとも関わりながら、塩竈のまちづくりを考えるワークショップを始めました。学生を連れて本町通りを歩いてみると、彼ら彼女らは、「何でこの通りには、こんなにスイーツ店があるのか」と言っていました。スイーツは幸せを呼ぶコンテナツといわれますが、通りには若者が飛びつくようなチョコレート屋さんやジェラート屋さん、伝統的なお菓子屋さんが多くみられ、歴史ある本町通りに新たな魅力が誕生して

いることに気づかされました。市のハード整備と同時に、地域の商店の皆さんがどう思っているのか、その意見をもとに、若者たちがどのように思っているのか、その意見をもとに、協働や共創で新たな価値を生み出す取り組みが大事なのではないかなと思っています。



亀井■今日の座談会のこの会場(旧亀井邸)もずっと空き家になっていました。元々この建物は、社長宅兼ゲストハウスとして、初代が建てたものですから、家宅としては、非常に凝った作りで、良い部材を使っています。ですので、空き家のままでは建物が傷むので、何かお役に立ててもらえないかと考えていましたら、市から「歴史的建造物なので使わせてもらえないか」という話をいただきました。私としましては、ありがたい話でした。修繕や管理は市やNPOをお願いし、展示やイベントスペースとして、市民の皆さんにご

活用いただいていることは大変ありがたいことです。

若者たちから見た塩竈

議長■私は、座談会にあたり、事前に若い方に塩竈の魅力とは何か、意見を伺ってきました。もちろん、お魚がおいしいことはみんな知っています。が、実はお米もおいしいという話もあり、その両方が揃っているところは案外無いもので、バランスが良いまちだと改めて思いました。また、「価値は評価されないと価値にならない。塩竈は良いところがいっぱいあるのに全国にアピールする発信力が足りない」という意見もいただきました。

塩竈は、都会過ぎず田舎過ぎないところ、仙台からもアクセスが良く距離感としてバランスが良い、住む人たちの顔が見える温かいまちです。私たちもデジタルの推進により、都会から離れていても仕事ができるなど、仕事や生活スタイルに対して価値が変わってきていることを認識し、塩竈は働く以外にも住みやすいまちであることをもっと発信していくことが必要なのだと思います。ですので、移住定住政策は非常に大事だと思います。利便性が良いということがこのまちの魅力ですね。若い方たちから話を聞いて、考え方を変えていかなければならないと改めて思いました。



観光ルートの幹線道路に面した「マリゲート塩釜」周辺



仲卸市場の空きスペースを活用した「セブンストリート」

佐々木 ■「価値は評価されないと価値にならない」まさにそのとおりだと思います。魅力が多く、絞り切れないのであれば、思い切って、若者の意見を聞いて絞っていくことも重要なかなと思います。

国は今、コンパクトシティ政策というのを打ち出しています。日本は人口減少社会となっていますので、まちを集約し、ネットワークでつなぎ、管理していくという政策です。

しかし、塩竈は面積をみてもコンパクトですし、既に集約されています。なので、私は塩竈はコンパクトシティというよりは、インパクトシティを目指したいのではないかと市長に言ったら「私自身、インパクトがありますからね(笑)」と返されたというエピソードを今でも覚えています。

塩竈の魅力は受け継がれている。それを維持することも大切だが、発信していくことも大切だと思います。創業塾や街並み活性は若者たちにも関心が高い政策ではないかと思えます。

主役が輝くまちづくり

市長 ■塩竈には全国に誇れる食材や地酒、お土産品がたくさんあります。一方で、週末に市内外の皆さんにお買い求めいただける場所が限られて

います。既施設の再活用も必要で、特に「マリゲート塩釜」や港奥部など周辺環境を一体的に整備することも重要です。

仲卸市場も最盛期には約360軒あったお店が現在は80数件まで減少しています。その空いたスペースをブリッジプロジェクトの皆さんや関係の皆さんのご努力で新たな発想の店舗展開が図られています。このようないっしょの個性を伸ばし、共に学び成長できる市役所になれるように努力します。

佐々木 ■塩竈のインパクトある取り組みを、塩竈市民の皆さんや塩竈ファンの皆さんが楽しみにしています。素早くできることから取り組むことが大切だと思います。

亀井 ■人が集まる魅力は「食」だと思います。塩竈で新たな食のムーブメントがあれば良いと思います。気軽に食べられるB級グルメなど、塩竈に行けば食べられるものがあれば良いと思います。

市長 ■塩竈市は、市民の皆さんの「縁の下」の力持ちになりたいと考えています。いろいろな活動をサポートするためには、まず我々がそのためのスキルを磨くことが大切です。

「より・そう・きもち」、そこから始めたことを考えています。

亀井 ■まちの高いポテンシャルが充分にまだ生かされていないと感じま

す。伸びしろでは無限の可能性があります。一人のチカラではなく、行政、民間、大学の知恵をいただき、皆さんで力を合わせる事が大事です。私もお役に立てればと思っています。

佐々木 ■まずは思いを伝えることが大切ですね。協働から共創へ。企業もそこからヒントを得ることもあるかもしれません。

市長 ■私たちは、過去の世代から引き継いだこのまちを次の世代へ伝える「つなぎ役」。より良い塩竈市をバトンタッチするために何ができるかを考え続ける必要があります。歴史をひも解きながら未来を創るために、いま試すべきことは何か、市制施行100周年に向けた新たな歴史が始まります。本日はありがとうございます。



会場となった「旧亀井邸」を懐かしむ亀井さん。思い出話にも花が咲きました。

問 秘書広報課広報係

0222(355) 5728